

平成二十六年十二月第六回人吉市議会定例会の初めに当たりまして、市政に対する所信を申し述べる機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

毎年開催しております「ひとよし“かがやき”づくりトーク」でございますが、本年も七月から今月まで二十三町内十五箇所で開催し、延べ三百六十九人の市民の皆様に参加をいただきました。今回も、参加者に市政を身近に感じ、ご理解を深めていただくため、本市を取り巻く環境やマニフェストの進捗状況などを、私から直接ご説明をさせていただいたところでございます。

また、去る十一月十一日、人吉市政を考える会主催による人吉市長ローカルマニフェスト検証会が開催されました。この検証会は、一般社団法人ひとよし球磨青年会議所の皆様を中心に一般の方々の公募による実行委員会方式で開催され、二期目の就任時に掲げさせていただきましたローカルマニフェストにつきまして、市民アンケートの結果や、実行委員会の評価が出され、そして私の方から進捗状況と自己評価を報告させていただきました。

ここで若干時間を頂きまして、ローカルマニフェストの進捗状況を述べさせていただきますと存じます。総合計画における六つの政策ごとにまとめ、「進行中」「実施済」「継続中」「代替」「凍結」の五つの判断基準のうち、「実施済」とさせていただいた項目の中から、主なものについてご報告させていただきます。

まず、「農業と観光で稼ぐ・儲かる経済都市ひとよし」の産業・経済分野におきましては、八つの取組項目のうち、「実施済」の項目が四項目でございます。

地産他商関係では、地元農産物や物産品の販売、観光PRを目的として、人吉ブランド実行委員会を中心に「人吉球磨の味めぐり」を開催しており、平成二十三年度、二十四年度には東京都庁において、平成二十五年度からは、大阪府と福岡県に会場を移し、実施したところでございます。ご来場いただいた多くの皆様にご好評いただき、本市の魅力をPRすることができたものと存じます。

また、人吉・球磨広域連合の活性化策としまして、平成二十五年四月から人吉球磨広域行政組合に「広域観光課」を設置し、関係機関と連携して様々なイベントを開催しているところでございます。

次に、「美しき相良七百年の歴史文化都市ひとよし」の教育・文化分野でございますが、四つの取組項目のうち、三項目が「実施済」でございます。

学校教育関係では、「放課後ただ塾」構想の一つであります「放課後パワーアップ教室」を、平成二十三年十月から市内六つの小学校で開始しております。希望した小学四年生から六年生までの児童のやる気を引き出しながら、基礎学力の向上、底上げに加え、学習習慣の確立と定着を目指して推進しているところでございます。夏休みには、小学三年生を対象にした「夏休みパワーアップ教室」も実施しております。いずれもボランティアで協力いただいている学習サポーターの皆様の熱心なご指導により、確実に成果が得られていると実感しているところでございます。また、平成二十五年六月からは、民間事業者のノウハウを取り入れた放課後の学習支援として、「人吉市花まる教室」を、小学二年生を対象に開講しております。花まる教室では、様々な独自の教材を用いながら、論理的思考力、

空間認識力、創造力などを育む取組を行っています。

郷土の偉人顕彰事業では、人吉城歴史館特別展として平成二十三年度に犬童球溪展、平成二十四年度は一井正典展、平成二十五年度には相良清兵衛展及び川上哲治氏の訃報を受け、哀悼の意を表しその偉業をたたえるため、中心市街地において追悼記念展を実施いたしました。また、一井正典「青雲の志」育成事業におきまして、地域間交流によるグローバルな人材育成を目指し、本市の高校生を米国へ派遣いたしております。参加した高校生だけの学びに止まらず、周囲の生徒たちに見聞を伝えることで刺激を与え、多くの青少年が志を高く持ち成長することを期待しているところでございます。

次に、「母なる清流球磨川が輝く自然安全都市ひとよし」の自然環境・安全分野でございますが、五つの取組項目のうち、四項目を「実施済」としております。

市庁舎建設関係につきましては、安全・安心のまちづくりの取組の一環として、平成二十四年度に庁内組織として「市庁舎移転建設研究委員会」を発足させ、平成二十五年十一月には、移転及び建設に関する重要事項を調査審議するため「人吉市庁舎等移転建設審議会」を設置し、基本構想の策定に向けて審議を重ねていただいているところでございます。

また、防災行政無線整備におきましては、災害などの情報を市内に広く一斉にお知らせするための同報系無線、災害時などの現場活動で利用する移動系無線の整備が、平成二十六年五月に全て完了しております。

人吉・球磨広域連合の活性化策として、平成二十三年度にごみ減量大作戦を開始し、平成二十四年度にレジ袋有料化、そして、平成二十五年度には「人吉ごみを出しま宣言」を宣言するなど、環境施策を進めているところでございます。

次に、「笑顔があふれ、幸せいっぱい健康福祉都市ひとよし」の健康・福祉分野でございますが、六つの取組項目のうち、五項目を「実施済」としております。

長寿健康づくり支援策として、平成二十五年度から人吉市地域包括支援センターを「元気・長生きセンター」という親しみやすい愛称にし、高齢者の日常生活に係る問題について、二十四時間体制でご相談いただける総合窓口として事業を実施しています。本センターでは、専門知識を持った職員が相談に応じ、関係機関と連携することで、問題解決に向けた支援が継続的に提供されるよう包括的な対応を行っているところでございます。

子育て世代の負担軽減策では、子供の医療費助成につきまして一部自己負担はございますが、平成二十六年七月から助成対象を小学校就学前から中学三年生までに拡大し、医療費自己負担に対し助成を行っております。

次に、「便利で住みやすいふるさと定住都市ひとよし」の都市基盤・建設分野でございますが、八つの取組項目のうち、七項目が「実施済」でございます。

人吉・球磨広域連合の活性化策として、(仮称)人吉球磨スマートインターチェンジ整備を掲げておりましたが、人吉球磨十市町村で「人吉・球磨スマートインターチェンジ整備促進協議会」を設置し、平成二十六年八月に国土交通大臣から連結許可を受け、平成三十一年度の完成を目指し事業を進めているところでございます。

また、くま川鉄道株式会社における最大の課題でありました車両の更新でございますが、

平成二十六年三月から、観光列車「田園シンフォニー」の導入という最高の形で実現することができました。

安全・安心のまちづくりの一環としまして、平成二十四年度から昭和五十六年五月三十一日以前の戸建木造住宅を対象とした耐震改修への補助及び市内の施工業者を活用した住宅リフォームや増築に対する補助を実施しております。なお、平成二十五年度からは、住宅リフォーム補助に地域木材使用の要件や、補助金の二分の一をきじ馬スタンプ商品券で支給するなど、合わせて地域活性化にも取り組んでいるところでございます。

このほか、市民のための交通手段の充実策として、きじ馬スタンプを乗合タクシーにも使えるようなシステムを構築しており、また、くま川鉄道株式会社のリニューアルに向け、今年度中に全車両を新車に更新することが確定しております。

最後に、「信頼と連携で力を合わせる市民主役都市ひとよし」の地域・自治分野でございますが、取組項目の十項目の全てが「実施済」となっております。

税金のムダ使い撲滅運動につきましては、前期に引き続き私自身の給与二〇パーセントカットを含め、特別職の給与削減を実施しております。また、職員定数につきましても、平成三十二年当初までに職員数を二十六人、七・六パーセント削減する新たな定員適正化計画を策定し、計画初年度である平成二十四年度から退職者に対する新規採用を抑制し、市職員の総人件費の削減に努めているところでございます。

新たな組織機構改革による機動性の高い組織づくりにつきましても、平成二十五年四月に組織改革を実施し、より一層の組織の効率化、機動性の向上を図り、業務に当たっております。

このほか、信頼性のある便利な市役所づくりとしまして、市民の皆様の利便性向上のため、平成二十五年度から市税や市営住宅家賃の各コンビニエンスストアでの納付を開始しております。

以上、「実施済」としたものについてご報告いたしました。これまで本市のまちづくりの理念である「市民みんなが健康で笑顔で暮らせるまち」を実現するために、市民の皆様の方々のご意見に耳を傾け、議員各位とも議論を重ね、職員とともに考え、マニフェストの遂行にまい進してきたところでございます。この場をお借りしまして、皆様方に厚くお礼申し上げる次第でございます。

成長戦略についてでございますが、地理空間情報技術関連につきましても、昨年引き続き、来る十二月五日人吉市カルチャーパレスにおいて、「まちを守り、ひとを守り、しごとを創るG空間」をテーマに、地理空間情報とICT技術を高度に活用し、G空間社会の実現に向けた「G空間×(タイムズ)ICTシンポジウム二〇一四 in 人吉」を開催する運びとなりました。

現在、総務省の社会実証事業である「G空間シティ構築事業」に産学官の関係機関が、連携し取り組んでおりますが、この事業を通じて、事業成果の普及や啓発、産学官連携の更なる体制強化、また、地域課題解決に向けた新たな展開などを一体的に推進するために、地域住民も含めた多様な主体に対してのメッセージの場となるべくシンポジウムを開催す

るものでございます。

今回のシンポジウム開催に当たり、ご後援を賜ります関係団体の方々からお礼申し上げますとともに、ご多忙の中、基調講演並びにパネリストとしてご登壇いただく方々に深く感謝申し上げる次第でございます。

地域再生計画関連でございますが、内閣府の「特定地域再生事業費補助金」を活用し、去る十一月十五日及び二十三日から二十四日の三日間、九州在住の留学生を中心としたムスリム五十四人の方々を本市にお招きし、宿泊や食事、さらにはくま川下りやサイクリングといった観光資源を活かしたツーリズムを体験していただくモニターツアーを実施しました。今回のモニターツアーでは、本市のホテル・旅館業や飲食業などの地域関係者の方々もムスリムの皆様と接し意見交換を行う機会を得ることができ、ムスリムに対する認識や理解が深まったものと存じます。

本事業を通じて、新たな市場開拓や雇用の創出、また、国内及び訪日外国人旅行者の増加に向けて、引き続き持続可能なツーリズムを中心とした、ムスリムに対するおもてなし構築事業の推進に努めてまいり所存でございます。

定住自立圏構想関係でございますが、圏域として必要な生活機能の確保に関して中心的な役割を担う意思を有することなどを明らかにするため、去る三月二十四日、中心市宣言を行いました。その後、人吉球磨十市町村による協議を重ね、相互の意思確認を十分に行いまして、この度、人吉球磨定住自立圏形成協定の締結についてご提案することといたしました。

協定につきましては、中心市である本市と球磨郡各町村との一対一による協定の締結でございます。また、協定内容に基づき十市町村で協力し、政策に取り組むこととなっております。

今後も、本市を中心に、より一層人吉球磨が一体となり、定住自立圏の確立に向け取り組んでまいり所存でございます。

(仮称)鉄道ミュージアム関係でございますが、本体の建築工事につきましては、現在、基礎工事が終わり木工事を行っております。ほぼ計画どおりの進捗状況でございます。この度、ミュージアムの名称を「人吉鉄道ミュージアムMOZOCAステーション868」に決めさせていただきました。MOZOCA(もぞか)は、皆様ご存じのとおり当地域の方言で、小さい、かわいいといった意味でございます。観光客の皆様には人吉球磨への旅の出发点として、また子供たちが学び、育ち、旅立つという意味も含んだのステーション、868は人吉の郵便番号でございますが、ミニトレインの列車番号にもなっております。人吉を連想させる数字として加えたものでございます。

「もぞか」が示すごとく建物や内部も非常にコンパクトになっておりますが、その中には肥薩線を中心とした鉄道の学びと遊びを詰め込んでまいりたいと存じます。また、運営につきましても、様々に検討してまいりましたが、当面は市の直営とし、部分的な委託による運営で協議を進めているところでございます。

館内外の構成といたしましては、一階に肥薩線のループやスイッチバックを模したミニ

ジオラマ、映像シアター、展示設備といったガイドンスゾーン、子供たちが駅の役割を遊びながら学べる駅舎や駅前をイメージしたゾーン、飲食コーナーなどを配置し、二階には教室やミニ図書館、休憩スペース、屋外にはミニトレイン、レールバイクといった乗り物のほか、館内随所に鉄道に関連する資料、グッズを配置するといった内容でございます。

鉄道を身近に感じながら居心地のよい空間、学習の場となりますよう、内容、運用の充実に向けて更なる検討を重ねてまいりますので、議員各位を始め市民の皆様にもご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

災害対策関係でございますが、十月に発生した台風十九号は、十一日から十四日にかけて、非常に強い勢力を保ちながら日本列島を縦断いたしました。

本市におきましても、十二日午前三時二十分に最大瞬間風速二〇・六メートルの東南東の風を記録するなど断続的に強風に見舞われておりまして、市民の皆様の安全確保を最優先とするため、七月の台風八号接近の時と同様、明るく安全なうちに避難していただくこととし、災害対策本部は十二日午後四時に市内全域を対象に避難勧告を発令いたしました。開設した九箇所の避難所では、避難勧告発令前から食糧と寝具の手配を進め、避難された方々に対し速やかな対応を行い、避難された高齢者の方や子供連れのご家族など、百三十七世帯、百九十六人の方々が避難所で一夜を過ごされました。翌十三日には、台風の通過に伴い、午後二時三十分避難勧告を解除し、午後三時の避難所の閉鎖までには、全員が帰宅されたところでございます。

この度の災害対応におきましても、災害対策本部・支部を中心に、地元町内会や消防団を始め関係機関のご協力により、一人の負傷者を出すこともなく円滑に避難行動ができましたことに、心からお礼申し上げます。

高齢者支援関係でございますが、本年度も市町村認知症施策総合推進事業の取組の一つとして、去る十一月十四日、西校区におきまして、「西校区から広げようつなげようオレんジの輪 くみみなで支えあい暮らしていくためにく」をテーマに、認知症高齢者への対応訓練を実施しました。当日は、町内会長を始め各町内会役員の皆様並びに各関係機関のご協力の下、総勢二百十人の方々にご参加をいただきました。

今回は、一人でも多くの方々に認知症を理解していただくため、最初に認知症の症状や対処方法を学習した後、その学習内容に基づき、声掛けなどの接し方について、模擬体験をしていただきました。また、人吉西小学校五年生の児童にも、事前学習を受けて、地域の方々と一緒に認知症の方への声掛け体験に参加をもらったところでございます。

本市では、認知症になられた方でも住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、子供から高齢者まで地域で見守り支え合う仕組みづくりを進めており、西校区におきましてもその第一歩が踏み出せたものと存じております。今後も校区や地区において認知症高齢者への理解を深める取組を実施し、地域での見守り支え合いの輪を広げてまいります。

農業関係でございますが、去る十一月八日、九日の両日、ふるさと歴史の広場において、第六十五回ひとよし産業祭が開催されました。

本年もステージと観客席を一体化した大型テントが設けられ、ステージにおきましては、

本年度の球磨川舟唄全国大会、球磨民謡全国選手権大会の総合優勝者である民謡大使のお二方の晴れやかな唄や、市民の皆様の楽しい踊りなどを披露していただきました。

また、食・物産コーナーにおいても、地元食材を使った食べ物や加工品のほか人吉球磨の物産や土産物などの販売、恒例となっております北海道小樽商工会議所から小樽物産販売や、本市の友好都市であります静岡県牧之原市の商工会女性部による物産販売も行っていたいただき、それぞれのコーナーでは、物産品などを買い求める多くのお客様で賑わってりました。

開催に当たりご協力いただきました実行委員会の皆様を始め市民の皆様方に対し、心からお礼申し上げます。

マニフェスト関係でも触れました地産他商関係でございますが、昨年に引き続き人吉ブランド化実行委員会主催により、「第三回人吉球磨の味めぐり in 福岡天神」を去る九月二十六日に福岡市役所ふれあい広場において、また「第二回人吉球磨の味めぐり in 大阪せんちゅうパル」を大阪府豊中市のせんちゅうパルにおいて、十月二十四日から二十六日までの三日間、開催されております。

両会場とも屋外でのイベントでございます、いずれの会場も好天に恵まれ、多くのお客様にご来場いただきました。福岡市では三回目、豊中市では二回目の開催になりましたが、ご来場いただいたお客様から、このイベントを楽しみにしていたというお声を多数いただき、人吉フェアの継続的な開催により、着実に本市の認知度が向上していることを実感いたしております。

人吉ブランド化実行委員会の皆様におかれましては、これまでの成果に基づき、今後都市部におけるイベントなどを企画し、更に人吉の認知度を向上させるとともに、本市の観光PRと地域の農産物や物産販売の拡大に努めていただきたいと存じます。

企業誘致関係でございますが、十一月の人事異動により、經濟部産業振興専門員を配置いたしました。産業振興専門員には、前職の豊富な経験、専門知識を活かし、本市が進めておりますハラル促進区をコアとした地域産直・広域ネットワーク及びツーリズム事業やハラルに関する事業の推進に取り組んでいただき、合わせて本市の地域振興及び経済の活性化に努めていただくこととしております。

観光関係でございますが、今回で十回目を迎えました「秋のじゅぐりつと博覧会」が、SL人吉運行最終日である昨日、ノスタルジック人吉などのイベントを最後に盛況のうちを終了することができました。今回は、プレイイベント「相良三十三観音めぐり秋の一斉開帳」を皮切りに、新たに「人吉工芸会展」を開催するなど、四十にも及ぶ様々なイベントなどがまちなかの至る所で開催されており、多くの市民の方々、観光客の皆様楽しんでいただいたことと存じます。各種イベント開催にご尽力いただきました実行委員の皆様方に対し、心から厚くお礼申し上げます。今後とも、人吉ならではの魅力づくりと心からのおもてなしに官民一体となって取り組み、更なる観光振興に努めてまいりたいと存じます。

本年度七回目となりますロングランイベント「人吉球磨は、銭湯開始」につきましては、十一月一日から来年三月三十一日までの期間、広域連携の温泉PRキャンペーンとして実

施しているところでございます。今回は「球磨川温泉郷レトロ旅く湯ったり食べ歩き」をテーマとして、趣旨に賛同いただいた四十二箇所の温泉施設のご協力の下、人吉球磨地方の温泉施設を山エリア、森エリア、城下町エリアの三つに分け、スタンプラリー方式で周遊していただくもので、パンフレットにはグルメマップなども掲載しております。癒しの温泉と食事を楽しみながら、多くの皆様に人吉球磨の魅力を感じていただけるような様々な手法で情報発信を行い、滞在型観光を推進してまいりたいと存じます。

くま川下り関係でございますが、現在、第三セクターのくま川下り株式会社におきまして、五月に策定されました事業再生計画により経営改善に取り組みされているところでございます。八月から人吉発船場の改装工事に着手し、十月には人吉城跡河畔を遊覧する昔懐かしい「貸しボート」の再現、十一月十日には人吉地産健康食堂「くまがわマルシェ」のオープンと、新たな事業をスタートされております。「くまがわマルシェ」では、人吉城跡の紅葉の景色と地元食材を使った食事を、多くの皆様が満喫し楽しんでいただいているようでございます。十二月からは、「こたつ舟」での運航となりますので、更なる発船場の拠点性が発揮されますよう、市といたしましても、引き続き事業再生計画の推進に向け、支援を行ってまいりたいと存じます。

本年度から実施を計画しております小・中学校における児童生徒のむし歯予防についてでございますが、各学校を始め人吉市歯科医師会、学校薬剤師の皆様など関係機関のご協力により実施体制が整いましたので、今月から市内小中学校において実施することといたしております。

この事業は、児童生徒の健康な歯を維持することを目的として、フッ素を含むうがい液を用いた「むし歯予防うがい」を、希望する児童生徒を対象に実施するものでございます。実施に当たりまして、全てのご家庭に対し希望調査を行いましたところ、全体の八割を超える二千二百五十七人の児童生徒のご家庭から希望をいただいております。実施後も新たな参加希望や取消しに随時対応することとし、より多くの児童生徒が「虫歯予防うがい」に取り組み、自らの歯と口の健康を維持することで、一人一人が丈夫な体を作れるようサポートしてまいりたいと存じます。また、事業効果、運営方法、さらには教職員の負担などにつきましても、関係機関と協議を行い、検証してまいりたいと存じます。

学校給食関係でございますが、近年、特定の食物を摂取することによってアナフィラキシーなど、食物アレルギー反応を起こす児童生徒が増加傾向にあることから、保護者、学校及び医師との連携を強化し、可能な限り児童生徒の個々の状況に応じた対応に努めるよう、国から指導も行われているところでございます。本市におきましては、これまで対象者への個別対応を行ってまいりましたが、昨年からは、アレルギー対応給食実施に向けて、アレルギー対象者の確実な把握を行うため、保護者、対象児童生徒、学校、給食センターが一体となって話し合いの機会を持つなど、きめ細かな状況確認を行ってきたところでございます。

今後は、アレルギー除去食の提供に向けて、専用の調理場所、調理器具の整備、さらには、特定の食物を取り除く専任の栄養士の配置と調理方法の安全確認、医療機関との連携

など、具体的な実施体制づくりに努めてまいりたいと存じます。

社会教育関係でございますが、第四十三回熊本県人権教育研究大会が去る十月十八日、十九日の両日、人吉球磨大会として開催されました。人吉球磨地域での開催は十年振りということもあって、準備から当日の運営、そして全体会、分科会への参加まで、熊本県人権教育研究協議会事務局を始め地元実行委員の皆様、郡市内外の多くの皆様方にご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。

本大会は、「部落差別の現実から深く学び人間を尊敬し、人と結び、豊かな関係に高めうる教育の営みへ」を大会テーマに、また、「温もりの絆がひびき合う、人権の郷づくりを人吉球磨の地から、すべての生命の輝きを祈りながら」という地元のテーマも掲げられ、当地に人権教育が更に深まり広がっていくという思いを込め、県内から三千人の方々に参加いただき、人吉スポーツパレスを全体会の会場として一市四町四村の十八会場で開催されております。

初日の全体会では、人吉球磨らしい郷土芸能でのおもてなしの後、昨年、国際障がい者ピアノフェスティバルにおいて金賞を受賞された月足さおりさんの特別報告があり、心に寄り添うことや他人を思いやることの大切さ、全ての命が限りあるがゆえに輝くことを語り、会場の思いを一つに包み込むようなピアノ演奏で、生きていることの尊さを改めて伝えてくれるものでございました。二日間という限られた時間でしたが、あらゆる差別や偏見がない人権の郷づくりに大きく踏み出す研究大会であったものと存じます。

次に本年で三年目となるひとよし花まる学園大学につきまして、去る十月二十五日に開校いたしました。講師には、まちづくり親善大使の原口泉氏、熊本大学名誉教授北野隆氏、包括協定関係にある熊本学園大学教授を中心に、各界各分野の講師陣を揃えまして、とことん歴史学「日本史の中の人吉藩」、終活を考える「残された人生をどのように生きたい」、「現代を読み解く」の三講座を、それぞれ六回開催しているところでございます。受講生百十五人の皆様には、知識を深め、教養を高め、そして何より人生を豊かにしていただけると存じますし、花まる学園大学で学ばれたことを地域や次世代の子供たちへ還元していただければ、本市が更にすばらしい生涯学習社会を形成することができると期待をしております。

また、花まる学園大学のもう一つの事業であります十代未来塾についても、恵良漢方堂の代表である恵良司氏に人吉高等学校で講演をいただき、人生の選択と勉強の関係について触れる機会を創出いたしました。現在、他の高等学校でも大学の先生方を派遣し講演会を開催することとしておりまして、この事業を通して十代の若者たちの飛躍の一助としたいと存じております。

文化財関係でございますが、現在、人吉城歴史館において特別展「明治・大正時代の人吉七町」を開催しております。今回の特別展では、当時の人吉町の中心地であり、現在も町名として残る九日町などの人吉七町の賑わいを引札や絵葉書などの資料から復元し、昔の町並みや風情が感じられる企画としておりまして、見学いただいた多くの方々、懐かしさと同時に新たな発見をされているようでございます。また、期間中「時代を彩る正月



用引札」を演題に、京都造形芸術大学非常勤講師熊倉一紗氏による記念講演会を開催しましたところ、多数の方々にご参加いただき、百年前の広告である引札の歴史的価値や芸術性に関する講演に興味深く聞き入っておられました。

文化振興関係でございますが、去る十月十一日から十六日までの期間、人吉スポーツパレスにおいて、第六十一回人吉球磨総合美展を開催いたしました。今回は、昨年の第六十回記念展より一般の出品者、出品数がともに減少しましたものの、招待作家、審査員、地元高校の生徒の作品を含め総数二五四点を展示いたしました。期間中は台風十九号の接近もあり心配いたしました。約千八百人も市民の方々に作品を鑑賞いただいたところでございます。

第六十八回犬童球溪顕彰音楽祭でございますが、去る十一月七日人吉市カルチャーパレスにおいて犬童球溪氏銅像前で碑前祭を行い、その後、学校発表会を開催いたしました。学校発表会には、十一月一日の個人コンクールで「球溪賞」を受賞した地元の児童生徒を始め人吉球磨地域の小学校二十五校、中学校十校、高校二校から千五百人を超える児童生徒がステージに立ち、素晴らしい演奏を繰り広げてくれました。これからも市民の皆様や関係者の方々と一体となって、音楽を通じて文化芸術を楽しめる音楽祭を開催し、本市の名誉市民である犬童球溪氏の遺志の継承に努めてまいりたいと存じます。

このほか、十一月二日、三日の二日間、人吉市カルチャーパレスにおきまして、人吉文化協会主催により第四十一回人吉文化祭が開催されております。一流派のいけばな展、茶会、美術工芸作品展、盆栽展、舞台芸術など会員の皆様がそれぞれの分野で日頃から研鑽されている成果を披露していただいております。ご来場の皆様には、心行くまで、芸術の秋を堪能いただけたものと存じます。今後も市民の文化力向上に係る取組や各団体の育成にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

次に、平成二十七年予算編成に向け、その方針を定めましたのでご報告申し上げます。国は、平成二十七年予算の概算要求において、中期財政計画に沿って、前々年度予算から引き続き、民需主導の経済成長と財政健全化に向けた目標の双方達成を目指し、メリハリのついた予算とするため、施策の優先順位を洗い出し、無駄を徹底して排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化するよう進めるとしております。一方で、地方財政については、地方の一般財源総額を「中期財政計画」に定められた方針に基づき、平成二十五年地方財政計画の水準を下回らないよう実質的に同水準を確保するとしているものの、経済再生の進展を踏まえて、リーマンショック後の危機対応モードから平時モードへの切替えを進めていくこととしております。また、先の臨時国会において、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるとともに、それぞれの地域で住みよい環境を確保し、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくための「まち・ひと・しごと創生法」が成立したことから、今後の国政の動向について注視していく必要があると存じております。

本市においては、これまで数次にわたり行財政改革に取り組み、分権時代にふさわしい行政体制の整備や財政健全化に努めてきたところであり、平成二十五年年度決算においては経常収支比率が九七・八パーセントと幾分改善傾向にはあるものの、依然として高く、財

政の硬直化は続いております。特に基幹財源である市税においては、法人企業など全国的には回復の兆しが伝えられているところではありますが、地方ではその効果がまだ見えてこない状況にあり、さらには生産年齢人口の減少、また平成二十七年においては固定資産税の三年に一度の評価替えに伴い減収が見込まれ、自主財源の確保は今後ますます厳しくなることが予想されるところであります。こうした厳しい現状からも、地方独自の経済成長による取組をもって税収の確保を図りつつ、総人件費や経常的経費の節減・圧縮を図ることによる行財政改革を積極的に進め、政策的経費についても聖域なき見直しを行うことで、最重要政策課題の早期対応と健全財政の維持向上の両立を推進していくことが、これから更に重要となると存じます。このため、平成二十七年予算編成にあたっては、再度第五次人吉市総合計画と照らし合わせた上で、補助事業も含め、市が真に担うべき業務を「選択」し、限られた財源において「成果」を見い出せるよう取り組む方針でございます。

なお、来年四月は任期満了に伴う市長の改選時期でもございますので、当初予算は骨格予算として編成を行い、その後、補正予算において肉付けを行うものでございます。議員各位を始め市民の皆様方におかれましても、この趣旨をご理解いただき、今後の改革改善に特段のご協力、ご協賛を賜りますようお願い申し上げます。